平成19年2月1日発行

讃樹會

香川大学医学部医学科同窓会
〒761－0793
香川県木田郡三木町池戸1750－1
TEL・FAX／087－840－2291
E-mail：dousou@med.kagawa-u.ac.jp
http://www.kms.ac.jp/~dousou/

年頭所感

讃樹會会長
髙橋　則尋
（昭和61年卒）

新年おめでとうございます。今年一年が会員の皆様にとりまして、有意義な一年となりますようにお祈り申し上げます。

さて、平成18年度の同窓会総会において皆様の承認を得て、４期目の会長の職を与えていただきました。すでに会報や総会における所信表明などにおいてこの２年間の抱負、いわゆるマニフェストについては開示しております。（詳しくは先の会報をご参照ください。）今回、特に同窓会活動を刷新するために従来の機構を大きく変えました。今までは理事会の中に執行部が存在しましたが、これを独立させ、立法と行政を独立させるように改めました。これにより、重要な案件を速やかに立案し、即効性のある追行が可能となるものと確信しております。

事実、近年わが附属病院の臨床研修医の参加数が衰退傾向にありましたが、同窓会機構に臨床研修制度に関する組織を立ち上げ、本学学生や現研修医に働きかけつつ、附属病院の臨床研修委員会のバックアップを行いました。早速、平成19年度は35名となり、その成果を得ることができました。これもひとえに学内研修センターの専属講師である、７期生の松原先生のがんばりとともに同窓会の臨床研修対策委員会に携わられた先生方の多大なる努力の賜物であると思います。

その他にも従来の活動を踏まえつつ、卒業生に対する海外留学、国内での研究、また学生や研修医に対する教育活動、さらには準会員である学生の様々なシーンでのバックアップを充実させております。

新年を迎えるにあたり、ビッグニュースが舞い込んできました。わが同窓会の悲願とも言える同窓生による本学教授が誕生しました。薬理学の西山先生です。先生のご活躍、業績は皆様もご存知だと思いますが、それがようやく本学教授会に認められました。これからも第二、第三の同窓教授が誕生することを願ってやみません。

昭和61年４月より始められました同窓会活動もすでに20年を数え、二十周年という記念すべき節目を迎えました。これからの同窓会は成人として自覚を持ちつつ、一方で本年は亥年であり、まさに猪突猛進していきたいと存じます。本年もよろしくお願いします。

CONTENTS

《特集》母校に卒業生の教授誕生 …… 2
《支部会報告》第５回関東支部会 …… 5
《同期会報告》第７期平成４年卒業生 …… 8
《公募》研究助成金・奨励金 …… 9
国外留学助成金 …… 10
《支援》医学科5年生と本院研修医・指導医との懇談会… 11
ICLS …… 11
《病棟だより》
香川大学医学部附属病院精神科神経科 … 20

特集　祝　母校に

教授就任挨拶

香川大学医学部医学科
形態・機能医学講座薬理学
教授　西山　成
（平成５年卒）

香川大学医学部同窓会讃樹會会員の皆様方におかれましては、益々御清祥のことお慶び申し上げます。この度、香川大学医学部薬理学教授に就任しました８期生の西山　成です。現在は同窓会広報局長を務めておりますが、今回このような大役を同窓生として初めて仰せつかることとなり、身の引き締まる思いでおります。まだまだ未熟な若輩者でありますが、今後とも何卒御指導・御鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

私が平成５年に香川大学医学部（旧香川医科大学）を卒業して岡山大学医学部附属病院などの研修後、再び本学にて学位を習得し、米国でのトレーニングを経て三度香川に戻ってはや５年が経過しました。これまでを振り返ってみますと、香川に戻った最大の理由は、同窓を始めとした多くの先輩、後輩、仲間達の暖かい励ましがあったからではないかと思っております。私の人生におきまして、このような暖かい御支援は本当に何事にもかえがたいものでありました。この場をお借りしまして、心より御礼申し上げます。

米国から香川に戻って数年、大きなうねりの中で様々な大学の問題に直面してきました。中でも卒後臨床研修医問題は最大の懸案事項であり、地方大学医学部の死活問題に直結しております。幸いにも、ここ数年の同窓会と大学の積極的な活動により、多くの卒業生が研修の場として母校を選んでくれるようになってきました。御批判もあるかもしれませんが、このような成果は同窓会がリーダーシップを取って大学と連携したことが一つの転機となったのではないかと考えております。これも個人的な意見として申し上げますが、この卒後臨床研修医問題は共通した大きな目標に向かって、全員が個々のレベルで対処した初めてのケースではないかと思っております。長尾病院長を中心に卒後臨床研修医センター長の石田教授や松原講師が行なわれております涙ぐましい努力はもちろんのこと、各診療科の諸先生方の御尽力や同窓会の活動、さらには我々のような基礎の教室でさえできることはやってきております。このような一連の活動によって一定の成果を得るに至ったことを大変嬉しく思うとともに、個々の利益を度外視して献身的に活動をされている母校の諸先生方を心から誇りに思っております。今後起こりうる様々な問題に対しましても、皆が一丸となって協力し合って行けば、必ずや香川大学の未来に道が開けるものであると信じております。

これまでは周りの方々の御支援を頂いて研究活動などを行なってきましたが、今後は逆の立場とならねばなりません。「大学のためにいったい何ができるのか、また何をすべきなのか？」を常に自分に問いつつ、全力を尽くして行きたいと考えております。まだまだ未熟な点が多いのは重々承知しております。今後とも御指導・御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

略歴

平成５年：香川医科大学医学部卒業
岡山大学医学部附属病院麻酔科蘇生科臨床研修医

平成６年：国立岩国病院麻酔科臨床研修医

平成10年：米国チュレーン大学医学部生理学教室ポストドクトラルフェロー

平成11年：香川医科大学大学院医学研究科（生体制御系専攻）修了

平成12年：香川医科大学医学部薬理学講座助手、米国チュレーン大学ヘルスサイエンスセンター生理学教室客員講師（兼任）

平成13年～現在：
米国チュレーン大学ヘルスサイエンスセンター
生理学・腎・高血圧COE　Adjunct Faculty（兼任）

平成14年：香川医科大学医学部薬理学講座学内講師

平成19年～現在：
香川大学医学部薬理学教授

卒業生の教授誕生

祝　辞

悲願であった母校初の教授就任を祝う

名誉会長　濱本　龍七郎
（昭和61年卒）

香川大学医学部医学科同窓会は、創立二十周年にあたる本年度、卒業生も2,000余人と膨らみ、押しも押されぬ大きな組織となりました。着実に進歩を遂げて来ている中で、大きく足らなかったものが、この記念すべき年にやっと現実となりました。

西山先生、新教授就任誠におめでとうございます。

卒業生の悲願であった母校初の教授誕生を、ついに先生が実現してくれました。私が先生と初めてお会いしたのは、数年前、先生が同窓会の役員になられた時に遡ります。折りしも“薬理学教室に西山あり”と名前を轟かせ始めた頃でしょうか。基礎系のホープ、サラブレッド、プリンス、どれをとっても先生に当てはまる言葉です。

貴方の力量を高く評価する仲間は多く、もし、先生が他大学で活躍する道を選ばれれば、母校にとっても同窓会にとっても大損失と言えるでしょう。そして、最後に勝ち抜く実力を持っておられることを、まざまざと先生は示してくれました。それは、生まれ持った才能だけでなく、今までの貴方の勤勉、努力、精進の結果だと思います。

同窓会のスター誕生に惜しみない拍手を送りたいと思います。今後も、卒業生、並びに在校生の模範となって下さい。同窓会の皆が、期待と敬意を込めて見守っています。

今まさに第一歩を踏み出された新任教授に次の言葉を送りたいと思います。

・教授会の先生方に感謝して下さい。
・今後は“香川の西山、ここにあり”と讃岐の丘から世界に発信して下さい。
・研究のみならず教育にも頑張って下さい。
・大学運営にも遺憾無く力を発揮して下さい。
・同窓会の為にも働いて下さい。
・後輩に夢とロマンを与えて下さい。
・先輩を敬って下さい。
・仲間を大切に、そして自分を大切にして下さい。
・また、一緒に酒でも酌み交わしましょう。
・本当に本当におめでとうございます。

西山君に捧ぐ

関東支部会支部長
伊藤　正裕
（昭和62年卒）

第一期生が入学した1980年より30年近く経った2007年、遂に初の母校での同窓の教授誕生。心よりお祝い申し上げます、というよりは、今、素直に同窓としてその喜びを噛み締めております。

西山君とは今までにじっくりと話し込んだことはほとんどありませんが、自分の記憶が正しければ、学生時代に「オリンピック（種目はウインドサーフィン）の最終選考レースが解剖学実習日と重なるのですが、レースの方に行ってもいいでしょうか？」と私が解剖学教室（現神経機能形態学）の助手になりたての頃に教室まで言いに来たあの時の茫洋とした学生が彼だったのでは・・・？一方、薬理学教室で毎日激しく実験して研究論文を国際誌に掲載した「すごい医学生」がいるという噂が研究棟に当時流れましたが、何年かしてそれが西山君だったとわかりました。いわゆる学生時代から既に頭角を現していた「人物」であったように思います。

さて、香川医大（現香川大学医学部）ももう新設医大とは言えない年齢になりました。参考までに、香川医大の５年ほど先輩の宮崎医大（現宮崎大学医学部）では母校出身教授は既に現在10人を輩出。この差は何かというと今までの＜卒業生の努力＞×＜教授会の方向性＞という掛け算の値の違いではなかったかと推察しています。しかし、我が国の人口が減少し始めた現在、昔みたいに「生え抜（同窓）」だとか「外様」だ「学閥」だとか言ってる場合でなくなり、内外問わずに優秀な人材を重用し「特徴ある大学」を打ち出していかなければ各大学が生き残っていかれない時代に突入したようです。今後、西山教授には、医学生→大学院生→教官（その間に香川医大→香川大学医学部へ）という立場でずっと本学を見てきたという角度からさまざまな問題を提起し大学改革案を立案・実行して

もらいたいと思います。「香川大学医学部をより良くしていきたい」と思う教職員・卒業生・学生は、今回の若い教授の誕生を心より喜び応援したいと思っていることでしょう。同窓のひとりとして西山教授の今後のご活躍と香川大学医学部の発展を心よりお祈り申し上げます。

同級生の快挙に拍手

香川大学医学部母子科学講座
周産期学婦人科学
金西　賢治
（平成５年卒）

まずは西山先生、香川大学薬理学講座教授就任おめでとうございます。香川大学医学部の卒業生から母校の教授就任が決まり、またそれが我々の同級生であるということは、本人はもとより我々にとっても、これほど誇らしいことはないと思います。教授と一言で言いましても、ここに至るまでは、人には言えないいろいろな苦労と、また一方ならぬ努力の結果だと思います。その思いは本人しか分からないでしょうし、言葉で言い尽くせるものではないと思います。学生時代からの彼の印象は何事にも動じず、自分の信念を貫くというイメージがありました。普段から目標や考え方がぶれることなく、日々努力してきたことが今日の結果に繋がったのではと、勝手に推察したりもしています。もともと生真面目なところも強い性格なので出身校の教授を勤めるという期待と、その逆に責任の大きさにプレッシャーのようなものも感じているかもしれません。今後は教室の発展のため、いま以上に研究や教育での責務も大きくなってくると思います。しかし、香川大学という地方の一大学ではありますが、そこを愛し、なんとか良くしていきたいと心から願っている卒業生達がたくさん残っています。無いとは思いますが、西山教授に困ったことがあれば、我々同期が常に、陰となり支えて行ければと思っています。最後に、母校で大きな業績を積まれ、教授に就任された西山成先生の今後さらなる発展を心からお祈りし祝辞とさせて頂きます。また、近いうちに87会では就任記念祝賀会（かこつけた同窓会かもしれませんが）を開催したいと思っておりますので、その際にはたくさんの方々が参加して頂ければと思っています。

内外ニュース

大学附属病院卒後臨床研修最終マッチング結果が前年比飛躍的な伸び

最終35名が香川大学附属病院での研修を希望！

平成19年度の香川大学医学部附属病院卒後臨床研修の最終マッチングは前年を大幅に上回る35名と決定した。今春卒業する６年生のおよそ３人に１人が母校で研修を受けることになる。

卒後臨床研修制度を開始した平成16年度から、年を追って地方大学での研修医不足に拍車がかかる傾向が全国的に見られ、大学、病院、同窓会ともに危機感を抱いていた。今回の最終マッチング数の目を見張る飛躍は、昨年５月から、卒後臨床研修センターに専任講師が就任したことはもとより、研修医への支援、学生の勧誘等、卒後臨床研修センター、大学、病院が一丸となって研修医獲得のために、さまざまに働きかけてきたことがその最大の要因といえる。

加えて同窓会も母校に人を残すという点に絞って、学生の意識調査、学生と研修医による「卒後臨床研修について語る会」の開催、指導医講習会へのサポート等、側面から支援してきたことの努力が実り好結果となった。

支部会報告

第５回関東支部会

つながっているからねって

林　省吾（平成14年卒）

讃樹會関東支部会第５回総会は、11月11日午後６時半より東京さぬき倶楽部で行われ、盛会のうちに終了致しました。当日は生憎の雨天にも関わらず、前香川大学学長木村好次先生ならびに前香川大学医学部看護学科教授平峯千春先生を始めとする、１期生から１年目研修医まで33名の先生方にご隣席を賜りました。ご参加下さった先生方と本会の成功に大きな力となって下さいました讃樹會関係者各位のご厚情に、心より御礼申し上げます。本当にどうもありがとうございました。

さて、総会は不肖小生の司会の元、伊藤正裕関東支部長の開会の挨拶から始まりました。ご来賓の先生方にご挨拶頂いた後、髙橋則尋会長に御講演を頂きました。髙橋会長は、第９回総会決定事項と新機構、平成18年度学術助成と留学助成報告、香川大学附属病院研修医の推移、今後の新規事業、関東支部会同窓へのメッセージ、といった様々な視点から、香川大学医学部と同窓会の現状と将来をお聞かせ下さいました。総会の写真からは同窓生の熱心な御討議に、活発な同窓会活動の一環を垣間見ることができましたし、卒後臨床研修指導医養成講習会の様子からは、臨床・研究・教育のあらゆる局面にサポートを惜しまれない讃樹會の姿勢を感じることができました。同窓会会長代行清元秀泰先生、理事長横井徹先生からの熱いメッセージには「支えられている」自らを再認識し、胸が熱くなりました。しかし何より、附属病院玄関右手バス停横のスターバックスの写真には、驚き隠しがたいものがありました。会長は最後に香川大学・同窓会連合会の設立に向けての活動を紹介され、講演を閉じられました。

岩橋和彦先生のご発声による乾杯から歓談に入り、会場は各期入り交じっての和やかな雰囲気に包まれました。また、研究奨励金受賞者である内藤宗和先生に対し、本会において授賞式を併せて執り行わさせて頂きました。引き続いて近況報告に入り、各先生方

来賓の木村前学長、平峯先生、寒川様（右から）

髙橋会長と伊藤支部長の固い握手

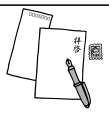
研究奨励賞を受賞された内藤先生
（平14卒）（右側）

にご挨拶を頂きました。また、会場をご紹介頂いた平峯先生からは会場の歴史についてご説明を賜り、久々に「腰のある」讃岐うどんを満喫した一同は、来年以降もこの場を会場とすることを満場一致で決議致しました。またしばし歓談の後、全員で記念写真を撮影し、北窓隆子先生による三三七拍子にて無事閉会を迎えることができました。

近況報告では、先生方から「自分の医療の原点は香川医大だったことに気がついた」、「数年のうちには嫁さんと子供を説得して是非香川に戻りたい」といった発言が相次ぎ、讃樹會・香川大学医学部同窓会も歴史と伝統を重ね、会員一人ひとりにとって大きな存在に発展しつつあることが感じられました。本会と讃樹會の発展のために、小生も微力ながら引き続きできることを探していきたいと、改めて感じた一夜でありました。

参加者一覧

卒業期年度	氏　名	卒業期年度	氏　名
来　賓	木村　好次	平成４年卒	後藤　孝也
来　賓	平峯　千春	平成４年卒	谷　　守通
来　賓	寒川　洋美	平成６年卒	伊藤美奈子
会　長	髙橋　則尋	平成６年卒	松尾　　寛
昭和61年卒	北窓　隆子	平成７年卒	直江　伸行
昭和62年卒	青田　洋一	平成９年卒	三宅　康弘
昭和62年卒	伊藤　正裕	平成10年卒	澤田　真也
昭和62年卒	井上　　清	平成12年卒	庄野　　和
昭和62年卒	岩橋　和彦	平成13年卒	西條　智博
昭和62年卒	坂本　和裕	平成13年卒	丸山　康世
昭和62年卒	高橋　幸道	平成14年卒	上利　　大
昭和63年卒	伊藤　　理	平成14年卒	内藤　宗和
昭和63年卒	橋本　政樹	平成14年卒	西澤　祐吏
平成元年卒	斉藤　　弘	平成14年卒	林　　省吾
平成元年卒	古市　　眞	平成15年卒	守屋佑貴子
平成３年卒	赤沼　真夫	平成18年卒	有田　淑恵
平成３年卒	石井　靖宏	合　計	33人



一言メッセージ（関東支部会返信はがきから）

卒年	氏　名	メッセージ
来　賓	後藤　　敦先生	毎回ご案内を頂き、大変有難うございます。今年こそは出席をと考えておりましたが、生憎、所用が出来、出席できません。支部長の伊藤先生によろしく。それから、ご出席の先生方のご健康をお祈り致します。香川医大を辞職してから、15年になります。早いものですネ!!
	神保　利春先生	他の用件と重なり、失礼致します。皆様のご発展と会のご盛会をお祈りいたします。
	西田　育弘先生	東京さぬき倶楽部は行ってみたいですけど、今回は予定が合いませんでした。
	土岐　　彰先生	学会があり、出席できません。皆様によろしくお伝え下さい。
昭和62年	川上　公宏	済みません。用があって抜けられません。
	近藤　昌敏	学会出席の為、出席できません。申し訳ありません。
	高橋真理子	いつも欠席で申し訳ありません。皆様によろしくお伝え下さい。
昭和63年	石川　宗一	診療にて出席かないません。申し訳ありません。
	岩田　　修	・トライアスロンしています。　・サロマ湖100km.走りました。
	井上(小松)由実	ご無沙汰しております。週末は子供関連の用事が入っており、出席できません。申し訳ございません。
	高久　誠子	ご盛会をお祈りしております。
平成元年	長　　俊宏	今年２月、親しかった同級生達とその家族で、山口の温泉に集い、楽しい時間を過ごしました。
平成４年	蔵谷　紀文	こどもの麻すい科やってます。埼玉医科大病院
	橋田　節子	今年８月に目黒駅ビルで開業しました。よろしくお願いします。
	原　　義明	学会中のため、残念ですが、欠席とします。又、機会がありましたら、出席したいと存じます。
	和田　雅樹	間近に現所属教室主催の学会(未熟児新生児学会)がひかえている為、都合がつきませんでした。申し訳ございません。また、12月に東京女子医大八千代医療センター（開院)に移る予定です。
平成６年	池田　宇次	参加できず本当に残念です。是非次回は参加させて下さい。ご盛会お祈りします。
	横塚　由美	子供が小さいので欠席します。すみません。
平成７年	榎本祥太郎	本年4月から和歌山より東京出向中です。会のご成功をお祈り申し上げます。
平成８年	大島早希子	子供のこともあり、出席出来ず申し訳ありません。会のご発展を心よりお祈り申し上げます。
平成９年	黒田　　功	当日、学会でケープタウンまで行ってきます。(サッカーの予習ではなく、本当に発表してきます)
	濱田　　孝	大変申し訳ございませんが、欠席させて頂きます。
	樋口　亮太	残念ですが、仕事の都合により今回は欠席とさせて頂きます。
平成10年	朝倉　浩文	残念ですが、都合により欠席とさせて頂きます。
	西園　千史	出産予定日が11月13日なので、申し訳ないのですが、欠席します。
	横田　恭子	リバプール(英国)熱帯医学校留学中。
平成11年	五味　　淳	誠に申し訳ございませんが、当日は日本臨床細胞学会への参加と発表があり、参加できそうにありません。同窓会、同窓生の益々のご発展をお祈り申し上げます。
平成12年	井上　茂亮	学会の為、不参加とさせて下さい。
	川越いづみ	来年こそは出席したいです。現在子育て(７才、３才、０才)と仕事が忙しくて、都合がつきません。
	川越　　信	小児科医を続けています。
	濱本　有祐	多忙につき欠席させて頂きます。盛会を期待しています。
平成13年	石川みずき	申し訳ありませんが、欠席とさせて頂きます。
平成14年	岸　摩紀子	今回の同窓会、残念ですが、欠席させて頂きます。貴会の益々のご発展を心より祈念いたします。
平成17年	漆原　知佳	仕事の都合がつかず、欠席させて頂きます。

同期会報告

第７期

平成４年卒業生同期会

乾　政志（平成４年卒）

卒後15年経過して、初めての同期会を開催することができた。きっかけは昨年の春頃、香川に残った同期生の飲み会の席での思いつきであった。我らが同期の木下博之先生が兵庫医科大学法医学の教授に就任し、そのお祝いをしようという話から、それなら同期会をぜひしよう！ということになった。時期と場所はいろいろ迷ったが、「温泉の泊まり込みで」ということで、９月の連休にことひら温泉琴参閣で同期会を開催することに決定した。お互い忙しいし、あまり集まらないかもなと思いながら案内状を送り返事を待った。この業界は異動が多いので、実際に連絡を取るとなると、相当に苦労した。（他の同期生を経由して情報を収集し、連絡先の分からない同期生に地道に電話連絡をしてくれた田井先生には本当に感謝しています。）最終的には全国から34名もの同窓生が参加してくれた。同期会当日、こんなにいっぱい来るのかなあと心配しながら、受付をしていたが、予定時刻が近づくと続々と懐かしい顔が集まってきた。しかも、本当にみんな昔とほとんど変わらない。顔を見て「どちら様でしたっけ？」という人は一人もいなかった。会の内容は幹事の準備不足でこれといった企画もなくただの宴会に近かったが、15年という時間を感じさせない、和やかな雰囲気で、それぞれに旧交を温め合うことができた。参加者一同から木下先生へのお祝いの記念品贈呈や、残念ながら、今回参加できなかった方からの近況報告付きの、欠席の返信はがきも参加者に紹介させていただき、１次会は無事に終了。続いて急遽開催となった２次会ではカラオケで、学生時代の十八番の歌を聞かせてくれる人やノリノリの曲ではみんなで大合唱したりと大いに盛り上がった。最後には、一人ずつ近況報告をし、お互いに元気で頑張ろうということで締めくくった。宿泊組はさらに温泉に入って、語り合いながら日頃の疲れを癒したり、部屋に戻って飲み直したりと、それぞれにリフレッシュし、翌日、元気に帰路についた。後日、参加者から「みんなに会えて元気をもらった」などのメールを戴き、皆さんに喜んでもらえて本当に良かったとほっと胸を撫で下ろした。

ご参加の同期の皆さん本当に今回はありがとうございました。また、何年か後にぜひ同期会を開催できればと思っています。今回参加できなかった方もぜひ次回はお待ちしています。

公 募

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會
平成19年度研究助成金／奨励金応募要領

１．研究助成の目的

学内外で活躍している同窓生の行っている研究活動をサポートし、それらの社会への還元を促進すること。

２．助成対象者

《研究助成金》香川大学医学部（旧香川医科大学）医学科同窓会の会員で卒後25年以内の者で申請時より遡って５年間（準会員期間を含む）の会費を納入している者。

《研究奨励金》香川大学医学部（旧香川医科大学）医学科同窓会の会員で卒後15年以内の者で申請時より遡って５年間（準会員期間を含む）の会費を納入している者。

尚、両者を同時に応募することはできない。

３．助成期間

１年間

４．助成金額

《研究助成金》1,000千円以内を１名

《研究奨励金》500千円以内を１名

５．選考方法

外部評価者（別表）による厳正な審査を経て、讃樹會理事会で決定する。

６．研究成果の報告義務

（１）研究助成を受けた方は、助成研究の結果（助成研究報告書）と研究助成金の使途明細（助成研究会計告）を、助成２年後の平成21年４月30日までに提出する。

（２）助成研究の成果を助成研究発表会で発表する（日時・形式については別途連絡）。

（３）助成研究の成果は、原則として学術誌に投稿すると共に、別刷一部を提出する。

（４）過去において助成された事績がある応募者は、その助成課題に対して学術誌に投稿（受理を含む）しておれば、別刷一部を添付。ただし、既に提出済みの別刷はその必要はない。論文に讃樹會への謝辞が記載されていないものについては、受け付けない。

（５）以上の報告義務を怠った場合には、助成金の返却を求める場合がある。

尚、やむを得ず申請者が手続きを完了できない場合には、共同研究者によってすべての報告が代行されるものとする。またこのような事が生じた場合は、総合的な責任は推薦者に発生するものとする。

７．平成19年度申請手続き

（１）申請書

讃樹會所定の申請書「第１号～第８号様式」を書面で「書留便」などの確実な方法で提出のこと。提出部数は原本各１部、複写各４部。

※第１号～８号様式は讃樹會ホームページからダウンロードできます。

（２）受付期間

平成19年２月１日～平成19年４月30日（締切日必着）

（３）提出先

〒761－0793　香川県木田郡三木町池戸1750－１

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會（担当／平木、柚山）

TEL･FAX／087－840－2291

URL:http://www.kms.ac.jp/~dousou/index.html

E-mail:dousou@med.kagawa-u.ac.jp

８．選考結果の通知

結果は文書で通知する（平成19年６月の予定）。尚、提出書類は返却しない。

研究助成金／奨励金　学外評価委員

臨床科

	氏　名	役　職	勤　務　先	所　　属
1	伊藤　貞嘉	教　　授	東北大学大学院医学系研究科・医学部	内科病態学講座 腎・高血圧・内分泌学部分野
2	香美　祥二	教　　授	徳島大学医学部医学科	発生発達医学講座　小児医学
3	岸本　武利	名誉教授	大阪市立大学大学院医学研究科	泌尿器科
4	成瀬　光栄	内分泌研究部長	京都医療センター　内分泌代謝センター	内分泌研究部
5	平川　方久	参　　与	香川県庁	健康福祉部
6	森田　　潔	教　　授	岡山大学大学院医歯総合研究科医学部	麻酔・蘇生学講座（病院長）
7	吉栖　正生	教　　授	広島大学大学院医歯薬学総合研究科	創生医科専攻　探索医科学講座 心臓血管生理医学

基礎科

	氏　名	役　職	勤　務　先	所　　属
1	梶谷　文彦	科学技術振興機構（JST）主監／川崎医科大学名誉教授／岡山大学名誉教授		
2	島田　眞久	名誉教授	大阪医科大学	
3	西堀　正洋	教　　授	岡山大学大学院医歯総合研究科医学部	機能制御学　薬理学
4	藤田　　守	教　　授	中村学園大学　栄養科学部	栄養科学科
5	三浦　克之	教　　授	大阪市立大学大学院医学研究科	薬効安全性学
6	森田　啓之	教　　授	岐阜大学医学部神経統御学講座	生理学分野
7	山中　伸弥	教　　授	京都大学再生医科学研究所	再生統御学研究部門　再生誘導研究分野

国外留学助成金応募要領

香川大学医学部医学科同窓会讃樹會では、本学の発展に寄与することを目的として、本学研究者の国外留学に対して以下の要領で助成いたします。

【対　　象】 香川大学医学部医学科同窓会正会員の６ヶ月以上の国外留学

【助 成 額】 年２回。１回を数件程度、総額500千円以内

【申請方法】 所定の申請書（ＨＰからダウンロード又は同窓会事務局に申請して下さい。）

【締め切り】 平成19年度〈第１回〉平成19年３月末日
平成19年度〈第２回〉平成19年９月末日

【提 出 先】 〒761－0793　香川県木田郡三木町池戸1750－1
TEL･Fax／087－840－2291
E-mail：dousou@med.kagawa-u.ac.jp

【審査方法】 讃樹會理事会において採否を決定する。

ダウンロード 申請書は讃樹會HP上「国外留学助成金」→「応募要項」→「4. 応募方法 所定の用紙」からダウンロードできます。

拡がる支援事業

「研修医協力」として10月の５年生対象の懇談会に、また「学生援助」として12月のICLSに、同窓会から支援を行った。母校の活性化の一助となるよう、多方面に支援の枠が拡がっている。

医学科５年生と本院研修医・指導医との懇談会

卒後臨床研修センター
専任講師　松原　修司
（平成４年卒）

今回は同窓会からの資金援助により、軽食を用意することが出来たことをお礼申し上げます。おかげさまで、過去に実施した説明会より多くの参加者（57名）がありましたことをご報告いたします。

まず、平成18年度のマッチング結果を学生さんに説明し、その後、本院の卒後臨床研修の説明、医師としてのライフプラン等について、私なりの解説を含めスライドを使用しながら詳説しました。

その後、当院腎臓内科の清元先生の経験をふまえたお話しがありました。続いて、卒後臨床研修センターを今春終了したOB３名および現在研修医の３名の近況や卒後臨床研修を受けるにあたっての心構えについてお話がありました。

学生からは、「当院での研修では、市中病院に比べて雑用は多くないのか？」、「出身地・地元に帰ることは考えなかったか？」、「なぜ本院を研修先に選んだか？」等の質問があり、OB・研修医が一人一人答えていました。基本的には研修における雑用業務はない。出身大学で形成された人間関係を重視して選んだ。先輩等の医師が多く、なんでも聞きやすい雰囲気が良かった等。学生さんは、OB・研修医の意見に真剣に耳を傾けていました。

夕食時の１時間30分余りの懇談会ではありましたが、同窓会よりご提供頂いた軽食・飲料水のお陰、更に充実した会にすることができました。

平成18年10月30日（月）／臨床講義棟１階にて

卒後臨床研修センターでは、来春（平成19年春、５、６年生対象）にも再度、説明会の実施を予定しております。今後とも、当センターの卒後臨床研修活動へのご支援を賜りますようお願いいたします。

ICLS（Immediate Cardiac Life Support）～学生による、学生のための救命救急講習会～

香川大学ACLS勉強会代表　酒井　亮太
（医学科５年）

私がICLS（Immediate Cardiac Life Support）と出会ったのは、一昨年2005年５月にあった、高知大学医学部の学生によるICLSワークショップであった。

部活の先輩に「救急で今、話題のICLSを友達の高知の学生がやってるから、一緒に見に行かないか？」と誘われた。その頃（４年生）は救急に興味はなかったが、親しい先輩なので断りきれずに、「ICLS」もいまいちよくわからないまま、結局高知に行くことになった。

「スゴイ･･･！！！！」

私はその時感じた感動を生涯忘れることはないと思った。実に衝撃的だった。

高知の学生の笑顔と拍手、そしてその雰囲気に僕は見事に呑まれていった。高度な内容なのに、わかりやすく、受講生を丁寧に誉めてくれる姿勢。丸一日中、受講生を一時も疲れさせることなく、笑いと拍手を交

えて、遅滞なく進行していく会。そしてドラマ「ER」の音楽をBGMに、救急の現場を再現した、蘇生デモンストレーションを見た時、私は自分と彼らとの大きな、大きな差に、正直焦りを感じずにはいられなかった。

帰途、みんなで遅めの夕飯を食べながら、私は高知での出来事を振り返っていた。

ICLSについて知っている学生は大学には少ない。学生が学ばなくて本当に良いのか。蘇生トレーニングを日頃から訓練することがどれだけ大事か。このまま研修医になったとき、そこにはどれだけの差が広がっているのか。救急にすごく興味があった訳ではなかった。しかし、全く偶然に、同じ部活に先進的な視点がある先輩をもって、その結果、たまたま高知で学生ICLSを目撃した自分には、運命的なものを感じた。そして見学に行った何人かの学生の中でも、香川の学生の間にもICLSを知ってもらう必要性を感じたらしかった。

そこで付け焼刃的ではあったが、ICLSの知識が深い先輩２名を中心に有志数十名で、その２ヶ月後に「第１回香川大学・学生によるICLSワークショップ」を開くことになった。

以上が、私がICLSというものに出会った経緯です。

ICLSとは日本救急医学会が推進する、蘇生トレーニングコースで、ここ数年で急速に広まり、いまや全国の病院で行われています。AHA（アメリカ心臓協会）のACLS（Advanced Cardiovascular Life Support）とは「心停止」に的を絞った点が異なり、突然の心停止に対する初期対応と適切なチーム蘇生の習得が目標で、研修医習得事項にもなっています。

このICLSを香川大学の学生が主体となって学生対象に教える会（香川大学ACLS勉強会）を先輩方が立ち上げて約1年半が経ちますが、これまで計４回のICLSワークショップを開催できました。どうしてここまでICLSを継続できたのか、考えてみたいと思います。

まず、ICLSを学生から始めることにどんな意義があるのでしょうか。

当初、この講習会を運営していくにあたって、「学生がそこまでする必要はない」的な意見をされることが多々ありました。確かに知識も浅く、臨床経験も全く無い学生が、臨床的内容を「教える」ことに何らかの危険性を伴うことは否めません。しかし、「Teaching is learning twice.」という言葉があります。直訳すれば「教えることは二度学ぶことである」ですが、これはすなわち、学びの効果について表した言葉です。以下、出典は不明ですが、ACLSインストラクター用資料に載っていたものを挙げます。

「学びの効果とは？」

講義を聴く　……全体の５％しか理解できない
本を読む　……全体の10％しか理解できない
プレゼンテーションする …やっと30％
ディスカッションする…50％
体験する　……75％
指導する　……90％

これを見て、何かに気づかないでしょうか？視点を変えると、これは私達医学生が将来歩んでいく「道のり」そのものではないでしょうか？「講義を聴く」「本を読む」は講義メインの３・４年生、「プレゼンテーションする」「ディスカッションする」は５・６年生、「体験する」は研修医、「**指導する**」は何十年か先の指導医となるわけです。

人に分かりやすく「教える」「伝える」ことには、教える内容だけではなく、知識のバックグランドがより豊富に必要です。さらに、そのことに対してより深い理解が必要になります。教えることで自分の無知に気づき、さらに勉強しなければならないことに気づくことが出来ます。「Teaching is learning twice.」という言葉にはそう言った意味が込められていると私は考えています。ですから、私自身の解釈では「教えることは二度美味しい」とさえ思っています。

そしてただ教えるだけではないのが学生ICLSです。学生ICLSには笑いを多く交えていて、そして受講生が何かを達成した際には拍手が絶えません。この「笑い」と「相手を称える拍手」の効果は初学者に対して効果絶大です。どうしたら、相手に分かりやすく、印象的に、そして心地良く学んでもらえるか。「自分が学ぶだけではなく、人に教えてまた学ぶ」という経験は学生にとって、今後の人生に大きな影響を与えるのではないでしょうか。

香川の学生がこの学生ICLSワークショップを立ち上げ、今日まで継続することができたのは、何よりこのような考えに共感してくれる多くの香川大学医学部の「仲間」がいたことだと思います。第１回の学生ICLSは全くの有志10数名のスタッフで始まりました。それが今日では、スタッフとして携わった学生は現在の卒業１年目～医学科３年生、看護科４年生までで総計30名以上にもおよびます。また、学生ICLSを受講もしくは見学した学生はのべ80名以上になります。本当に私自身こんなにICLSの輪が広がるとは思ってもみませんでした。

そして、私達学生にとって幸運だったのは支援・指導して頂ける先生方に出会えたことです。救急救命センター長の黒田泰弘先生、同センターの山下進先生、そして第１回当初から色々と学生の相談に乗って下さった、麻酔救急医学講座の岩永康之先生です。先生方のご協力もあって蘇生人形の機材が置いてある大学の部屋を貸して頂けたり、練習の合間に出てきた疑問点などを丁寧に学生に教えて下さったりしました。学生ICLSワークショップの開催は先生方の全面的なバックアップがあったからこそだと思います。

さらにこのような学生主体プロジェクトに対して資金面での協力を香川大学医学部同窓会にして頂きました。香川大学ACLS勉強会は有志団体であり、資金的な援助は全くありませんでした。そのため当初は学生スタッフで費用を負担しましたが、現在は一定額を頂いているので非常に助かっています。学生が主体的に動いて挑戦する、このようなチャレンジ的活動を見出して頂いたことに、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今後の香川大学ACLS勉強会の展望と致しましては、第一にこの「Teaching is learning twice.」の精神を様々な分野に応用できないかということです。全国の大学でも香川と同じような講習会を行っていますが、さらに先進的な関東や関西圏の大学ではJATEC（Japan Advanced Trauma Evaluation and Care）と言った外傷系のトレーニングコースやPALS（Pediatric Advanced Life Support：いわゆるACLS小児バージョン）などを学生なりにアレンジして講習会や勉強会を開いています。すなわち新しいことをどんどん吸収し、人に「教える」ことでさらに自分のものにしようとする学生が多いのです。また、この精神は普段の教科書的な内容を学ぶ意味でも重要だと思います。以前、東京大学５、６年の学生が解剖を学ぶ後輩に分かりやすいプリントを作っているという話を聞いたことがあります。解剖での苦労がわかるからこそ、重要ポイントや面白さも伝わりやすいということだと思います。実際私自身も２年生の解剖実習の際、偶然来ていた６年生に色々と教えて頂いて非常に分かりやすかったという経験があります。こういったことを今後、大学のカリキュラムに取り込めば、非常に特色ある教育内容となるのではないでしょうか？

第二に、現在の学生スタッフには看護科の学生が数名しかいません。受講希望もほぼ医学科の学生で、見学者ですら看護科の学生は多くありません。病院のICLSコースに参加したことが何回かありますが、そこでのインストラクターの７割は看護師です。ICLSは決して医師のみが出来れば良い内容ではなく、スムーズな蘇生のためには医療職全員の共通認識である必要があります。今後は是非看護科の学生にもICLSを広めたいと考えています。

第三に現在まだ計画段階ですが、将来的にはいわゆる心臓マッサージなどの一次救命処置（BLS：Basic Life Support）をこの香川という地で一般の方々にも広めて行く計画です。救命と言うのは「通報」「心臓マッサージ」「AED」「病院での医療処置」の輪がうまく重なり合って初めて成功するものです。前半三つは一般の方々の行動で成り立ち、この行動如何で急病者を救えるか否かが決まると言っても過言ではありません。手始めに先の、後輩に「教える」という点もふまえ、医学科1年生対象にBLSの講習会を開く予定です。

私にとってICLSとの出会いは、高知での単なるICLSとの出会いだけではなく、「仲間」との出会い、「先生方」との出会い、そして「Teaching is learning twice.」などといった「考え方」との出会いでもありました。ここまで、一緒にやってきたACLS勉強会のメンバー、支援して頂いた先生方並びに同窓会の方々に本当に感謝しています。ありがとうございました。

病棟だより

香川大学医学部附属病院
東病棟１階

精神科神経科

教授　**中村　祐**

讃樹會の先生方におかれましてはご活躍のことと存じます。

東１階東病棟は平成17年10月より改装の為に一時休床し、平成18年４月１日よりリニューアルオープンしました。休床中は、讃樹會の先生方をはじめ関係者の方には多大のご迷惑をおかけしましたことをお詫び申し上げます。新しい東１階東病棟の紹介を簡単にさせて頂きます。

東１階東病棟は、精神保健法上の精神科病棟であり、以前は閉鎖病棟として開院以来運用してきました。しかし、大学附属病院の中で閉鎖病棟を効率よく運用することは難しく、現在の医療ニーズの変化に合わせて、夜間のみ出入りを制限する開放病棟として改装いたしました（詳しくは、http://www.kms.ac.jp/~psy/index.htmlをご覧ください）。但し、保護室は残して、一部閉鎖処遇で対応も可能とし、従前の閉鎖病棟の機能を全く失わないことに留意して改装を行いました。

改装の主点は、トイレがない保護室２床を双方ともトイレのある保護室に改装したことです。１床は専用のトイレ室のある、普通個室としても使用可能なソフト保護室に改装しました。また、もう１床の保護室には、従来なかった特別製のトイレ（突起物がない、外から操作可能）を設置し、鉄格子を撤去してアクリル張りにするなど近代的な保護室に改装しました。これらの保護室を適宜利用することにより、一時的には開放病棟のみでは対応が難しい患者様の診療を行うことができると考えています。

従来の病棟は、病棟内の照度、雰囲気ともにかなり暗い印象をお持ちと存じます。その為、今回の改装では、窓の鉄格子の撤去、照明の照度アップ、壁面の塗り替えなどを行い、その結果、病室、廊下、デイルームがかなり明るくなり、雰囲気が一変しました。

また、大部分の病室にpipingの設置を行い、ある程度の身体医療にも対応できるようにしました。これらの改装により従来に比べて、明るく開放的で機能的な病棟に生まれ変わることができました。

これらの当病棟の長所を生かして、今後の診療に役立てていく所存です。讃樹會の先生方で、見学のご希望が御座いましたら、お越し頂けましたら幸いです。

デイルーム・食堂

ソフト保護室（施錠可トイレ付き）

保護室

事務局からのお知らせ

お詫びと訂正

同窓会報32号P32下段「卒後臨床研修医講習会に参加して」をご寄稿頂きました岩永康之先生のご所属を間違って**放射線科**と掲載致しました。正しくは、**麻酔・救急医学講座**です。謹んでお詫びと訂正を申し上げます。

讃樹會ＨＰ　http://www.kms.ac.jp/~dousou/の会員専用ページのユーザーＩＤとパスワード

会員の皆様にはＨＰ立ち上げの際に文書にて周知させていただいていますが、忘失された方は、下記までお問合せください。折り返し返信させていただきます。異動のご連絡もお寄せいただくと幸いです。

讃樹會メールアドレス：dousou@med.kagawa-u.ac.jp